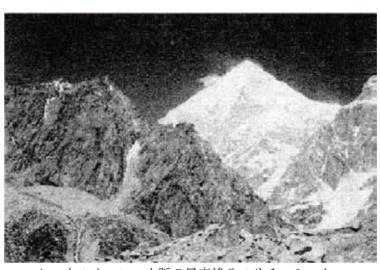
も初めから医療奉仕などという大それた考えがあった訳ではない。 私を最初にこの地と結びつけたのは、 雄大なカラコル ムの自然と私の好きな蝶であった。 何



ッシュ山脈の最高峰テ 3

登高会、 Ġ, 末端にたどり着く。 州の北辺チトラールに入り、 ある。 ウクツ に参加 支流に沿っ であるチトラ スタ ティリチ・ ンプが設営されて行われた。 九六八年の六月、 標高三八〇〇メ ンとパキスタン北西部を隔てる美しい シュ パキスタン側からのル して、 新貝勲会長) 3 て麓の村々を通過し、 山脈の最高峰で、 ールは、 初めてパキスタンの地を踏んだ。 ル 川をさか 我々の登山活動は南壁側 私は カラコルム西方のヒ のティリチ トルの地点にベ 福岡 0 ぼり、 ートは、 イ ちょうどアフガニ ンダス河の支流 Ш バ 3 岳会 ルム氷河の 更にその一 北西辺境 ル スキャ (福岡

累々と果て ながら緑の点となり、 そこには、 しなく連なる巨大な白峰がまず我々を圧倒する。 あらゆる人工の小細工を超越して君臨するひとつの力を感じ取ることができる。 全ての 人の営みが何か小さな、 取るに足らぬもののように思われ 見下ろせば、 オア シ スの 村々もさ

大な自然をとおして啓示される力の前にひれ伏しているように見えるのである。 山間部に散在してい 北西辺境州は概 ね熱砂 る。 Ď 強烈な陽光と眩しい 中 央アジアに続く岩石沙漠で、 白雪を戴く荒々 村落は 人口の 山塊のもとで、 オアシス 全てのものが壮 T たい T l,